

第35回 まつやま中学生 海外派遣レポート

～ 姉妹都市訪問 & 異文化体験 ～

アメリカ班

アメリカ班は20名が7月26日から8月4日の10日間、姉妹都市であるサクラメントのほかサンフランシスコ、ロサンゼルス、サンディエゴを訪問しました。



GUT!

Wie geht's?



ドイツ班は20名が7月22日から7月31日の10日間、姉妹都市であるフライブルクのほかスイスのジュネーブなどを訪問しました。



ドイツ班

派遣事業概要

(公財)松山国際交流協会では、毎年夏休み中に「まつやま中学生海外派遣」を実施しています。

この派遣は、松山市の姉妹・友好都市での交流や体験学習、ホームステイなど、文化や言葉の違う人達との交流を通して、色々な価値観があることを学び、広い視野を持って物事を見ることができる国際性豊かな人材の育成を目的としています。

昨年度に「中学生チャレンジプロジェクト」(※1)へ登録し、1年を通じて国際交流活動に参加した中学生を対象に、派遣生の募集を行いました。その中から選考された40名が、4回の事前研修の後、アメリカ班、ドイツ班に分かれ派遣されました。この派遣を通して学んだこと、心に残ったことなどを本レポートにまとめました。

※1 「中学生チャレンジプロジェクト」については本誌10ページをご覧ください。
※今年度の韓国班は派遣を休止しています。

派遣事業全体スケジュール

6月18日(日)	事前研修会
6月25日(日)	事前研修会
7月 2日(日)	事前研修会
7月 9日(日)	結団式・壮行会
7月22日(土)	ドイツ班 松山空港出発
7月26日(水)	アメリカ班 松山空港出発
7月31日(月)	ドイツ班 松山空港着
8月 4日(金)	アメリカ班 松山空港着
8月中旬	事後研修
8月19日(土)	報告会

事前研修

派遣先の文化やライフスタイルを理解するとともに、自分たちの国や街のことを再確認し、ホームステイ先でもきちんと紹介できるよう、出発までの間、4回にわたり事前研修を行いました。



報告会

帰国後、それぞれの班が現地学んだ知識や体験等を発表する「報告会」を行いました。



アメリカ班



CITY OF SACRAMENTO
サクラメント市

一生の宝物 アメリカでの経験

松山市立内宮中学校 大塚 那保



球場の大きなキャップ

飛行機がサンフランシスコ国際空港に着陸したとき、「ついにアメリカに着いた」と、とても興奮していたのをはつきりと覚えてます。飛行機を降り、すべてが英語の世界に驚きました。緊張の入国審査を受けたあと、初めてのアメリカの景色を目にしました。日本とは全く違う景色に終始とれました。これから、感動いっぱいアメリカ滞在が始まりました。

今回のアメリカ滞在で特に心に残っていることのひとつに、メジャーリーグの観戦があります。球場は、エンジェルスに着いた後、試合開始前から、本場の熱い雰囲気を感じました。試合中は、生の試合に目を奪われました。球場内を飛び交う皆さんの声援が、今でも聞こえてくるような気がします。

第1日	7月26日(水)	松山発 サンフランシスコ着後、 サクラメントへ移動
第2日	7月27日(木)	サクラメント市内研修 ウェルカムパーティー
第3日	7月28日(金)	金鉱発掘ツアー ホームステイ開始
第4日~第5日	7月29日(土) ~30日(日)	ホームステイ
第6日	7月31日(月)	サンディエゴへ移動 サンディエゴミッドウェイ 航空母艦博物館
第7日	8月1日(火)	カリフォルニア州立大学・ サンマルコス校研修 カリフォルニアサイエンスセンター メジャーリーグ試合観戦
第8日	8月2日(水)	全米日系人博物館 ワナーブラザーズ・バックヤードツアー チャイニーズシアター
第9日	8月3日(木)	ロサンゼルス発
第10日	8月4日(金)	松山着

他にも、アメリカで印象的だったのは、日本車がたくさん走っていたということです。日本は世界に誇れる国なのだといいことを、海外に出ることで、改めて実感することができました。

今回のアメリカでの経験は、一生忘れることのない宝物になりました。本当にありがとうございました。

忘れられない10日間

愛光中学校 川染 佑奈



エンデバー

私はこの10日間、ホームステイ以外で印象的だったのは、サクラメントでのウェルカムパーティー、ロサンゼルスでのカリフォルニアサイエンスセンター、そしてワナーブラザーズバックヤードツアーでした。ウェルカムパーティーでは英語での司会進行とグループでの英語劇を発表しました。英語劇は脚本からオリジナルで作りました。事前研修から班の皆で協力し、とても楽しい劇(忍者えもん)になりました。また、

アメリカでは、想像していたよりも多くの人と話すことができました。「Hello, how are you?」「Thank you, have a nice day!」などといった会話を買い物や毎回の帰りの英語を多く話すことができました。アメリカ人と会話をすることができ、良い経験になりました。

今回の派遣は、たくさんの方の協力によって成り立っているということを改めて感じました。派遣中にたくさんの方が言われていた、「させていたたく」という気持ちを忘れられないようにしたいです。1人では絶対にすることのできない経験をさせていただいたことに感謝します。今回の経験を生かして、今後も国際交流の事業に関わっていきたくと思います。



私が一番心に残った場所、カリフォルニア州議事堂

「最高の夏」

愛媛大学教育学部附属中学校 近藤 呼夏



ホストファミリーと

サンフランシスコ国際空港に着くと、そこは日本とは全く違う世界でした。金色の髪の毛に流暢な英語、「夢にまで見たアメリカに自分があるんだ」と思うと、とても嬉しくなりました。

私にとって始めの2泊3日は「ウェルカムパーティー」でした。ホストファミリーと会うため、とても緊張していました。しかし、その緊張を吹き飛ばしてくるくらい楽しく有意義な時間を過ごすことができました。それは、「Don't be shy」の精神で自分から積極的に話しかけたからだだと思います。

他にも、「市庁舎見学」や「メジャーリーグ試合観戦」「ワナーブラザーズバックヤードツアー」など、アメリカで、そしてついでに中学生海外派遣でしか経験できないことが、ギョッと詰まった10日間でした。そんな私にとって忘れられない最高の夏をくれた多くの人に感謝し、これから今までよりも積極的に国際交流に関わっていきたくです。学び、発見、感動、感謝がたくさんあった派遣となりました。

コミュニケーションを通して

愛媛大学教育学部附属中学校 坂本 颯真



現地の高校生と一緒に

私のこの研修の目標は、「自分を成長させ、たくさんの方と話すこと」でした。

しかし、空港やホームステイでは自分の伝えたいことを、相手に伝えることは容易なことではありませんでした。普段使わない英語で話すことは、とても気持ちが高ぶりましたが、力さを痛感しました。

そんな中、6日目はミッドウェイ航空母艦を現地の高校生と見学しました。私は会話が不安でしたが、一緒に巡ったティナさんは明るくて、日本のアニメのことなどについて話しかけてくれました。彼女は話をしながら、私に気付かせてくれたことがありました。相手とコミュニケーションをとることは自分次第なのです。

コミュニケーションで一番大切なのは「実践力」だと知りました。頭の中で考えているだけでは、心に迷いが生じるだけなのです。サニさんの教えてくれた「Don't be shy」の意味が分かった気がしました。そんなことに気付いた私は、自然に口が開くようになっていました。何も意識せずに会話をすると笑顔が生まれ、コミュニケーションが取れることに対してやりがいを感じられるようになりました。

アメリカと日本の違い

松山市立道後中学校 佐々木 薫子



桁違いのハイウェイ

アメリカに着いてまず最初に、日本とは違って、アメリカの気候は、湿度が低いと感じ、とても過ごしやすそうだなと思いました。そして、研修が進むにつれ、他にも、日本とアメリカの違いが多くあることに気が付きました。

一つ目は、相づちの違いです。日本では、話の内容を理解していれば「うん、うん」と言いますが、アメリカでは「Eh」「Huh」と言ってもかまいません。英語がもたらす面白いなと思う瞬間でした。二つ目は、食べ物の大きさです。ハンバーガーは、日本の2倍の大きさがあり、Mサイズのドリンクを注文したとしても、日本でのLサイズのドリンクが普通に出てきて飲みきれないくらいの量でした。三つ目は、ジェスチャーの違いです。例えば、日本では手のひらを下にして手招きしますが、アメリカでは、手のひらを上にして手招きします。一つの動作が大きく、私が理解していません。一つは動作が大きく、私が理解していません。

私は、英語を話すことはあまり得意ではなかったけれど、この研修を通じて、もっと高い英語力を身につけ、楽しく会話したいと強く思うようになりました。そのために英語をもっと勉強して、またアメリカに行きたいと思えます。一生忘れることのできる素晴らしい経験ができました。

最後に、今回の派遣でお世話になった先生方、関係者の皆様ありがとうございました。そして快く送り出してくれた両親に感謝します。

初めてのアメリカ

松山市立道後中学校 佐々木 桜子



ロサンゼルス空港にて

何もかもが初めてのアメリカ研修は、とても緊張した中、始まりました。最初の緊張は、アメリカの入国審査の時でした。強そうな職員が「Next」と私を呼び質問をしてくるのですが、その英語は早すぎて聞き取ることができませんでした。その様子を見ていた職員の方は、今度はゆっくりと話してくれたので、無事に質問に答えることができました。「Have a nice trip」と言われて通してもらえました。「緊張を乗り切ることができて、英語にもアメリカの雰囲気にも慣れてきました。2つ目の緊張は、お金の単位がドルなので、買い物をする際に、紙幣を確認して、日本円に直して支払わなければならないので、素早く計算してお札を出すことができず、戸惑ってしまいました。後ろの人にも迷惑をかけてしまいました。「次こそは、うまく支払いができるようになろう。」と夜も一度支払いの場面を想像しながらシミュレーションをしたおかげで、次の支払いの時はスムーズにできるようになり、コインを使った支払いもできるようになりました。

他にも、緊張したことは多くありましたが、アメリカ研修に参加できて本当に良かったと思います。それは、実際に自分の目で異国の文化を見て体験することができたからです。一生忘れない素晴らしい思い出を得て、これからもっと英語を勉強したいという気持ちを強く持ちました。今回の研修でお世話になった関係者の方と家族に感謝しています。

十五の夏

☆ in USA ☆

松山市立久米中学校 佐々木 万優

今回のアメリカへの海外派遣は、私にとつて初めての海外であり、とてもいい刺激になりました。

した。出発の日、「アメリカの文化はどんなものなのだろう。」「現地の人とどんな会話ができるだろう。」と楽しみや期待を膨らませる一方で、たくさん不安もありました。そんな複雑な気持ちで飛行機に乗りましたが、約10時間という長いフライトで、みんなとの会話がなくなり、ラックスで時間が短く感じられました。

様々な場所を見学しましたが、特に印象に残ったのはカリフォルニア州立大学サンマルコス校の訪問です。まず最初に思ったことは、とても大きいということです。キャンパス施設、食堂、図書館、全てが大きくて驚きました。広場もあり、時々壁をスクリーンにして映画が上映されるそうです。もう一つ思ったことは、たくさん人の人が通っていることです。私がお話した人は中国の方でした。交流の時には「Don't be shy」を忘れずに片言の英語だけれど、楽しく会話ができました。大学から出る時にも大学生を見かけましたが、皆とても楽しそうにキラキラしていました。私も今回学んだことを大切にして、様々なことに興味を持ちもつと視野を広げたいです。

貴重な経験をさせてくれた、先生方、アメリカの皆、家族など、たくさんの人に感謝しています。忘れられない「十五の夏」になりました。ありがとうございました！



映画館となる広場

初めてのアメリカ

愛媛県立松山西中等教育学校 高橋 蒼

私は、この研修の目標を「Don't be shy」(恥ずかしがらずに)として積極的に行動して行きました。私にとつてこの研修が初のアメリカで、毎日が驚きの連続でした。スクラメントの美しい街並み、ホストファミリーとの出会い、カリフォルニアサイエンスセンターのエンデバーやミッドウェイ航空母艦などの施設を訪問し、本場アメリカでの「バーガーの味など、10日間のすべてが一生忘れられない体験となりました。

ホームステイ先、サンマルコス校などさまざま

まな場所での現地の人と英語で話す機会がありました。特に印象に残っているのは、アナハイムのホテルでの滞在の時です。飲み物を買おうとした時に自動販売機の釣銭が返却されず、ホテルのスタッフに英語で説明しました。身振り手振りを使いながら必死で単語をつなぎ合わせて話すと、私の英語がスタッフに伝わり、釣銭は無事私の手元に戻りました。コミニケーションをとる中で一番大切なことは、伝えようとする「気持ち」であることに身をもつて気づかされました。

今回の研修は、人生の中でも素晴らしい思い出になりました。私は、さらに英語を勉強してもう一度アメリカに行きたいと思っています。そして、このような素敵な機会を与えてくださったすべての人々に感謝します。ありがとうございました。



ホストファミリーとともに

10日間の宝物

松山市立中島中学校 竹田 仁実

初めての海外。一生忘れることのないアメリカでの10日間。毎日刺激的でした。濃厚で充実した日々、長いようで短く、あつという間に過ぎていった時間の中で学んだこと、感じたことがたくさんありました。

最も心に残っているのは、カリフォルニア州立大学サンマルコス校を訪問した時のことです。現地の大学生の方と派遣生二人の三人組でコミニケーション活動を行いました。知っている単語を組み合わせ、英語を使って何とか交流できましたが、言葉の壁、そして自分の英語力の未熟さを痛感しました。「もっと上手に伝えたい気持ちはあるのに、うまく伝えられない」。改めて英語の学習に力を入れようと思いました。

一方で、自分の中で二歩踏み出せた出来事もありました。自分の目標としていた「つながり」を持ってたことです。日本人の留学生の方と交流することができ、連絡先を交換して今

でも連絡を取り合っています。その場だけでなく、今後も続く関係をつくることができました。これは、私にとつてとても貴重で、とても大切な一歩です。

この10日間は、私の宝物です。引率して下さった先生方、サニさん、そして家族。この派遣を支えて下さった全ての方々に対して、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



留学生の方と！

アメリカで学んだこと

松山市立道後中学校 伊達 智哉

僕は、今回の派遣でたくさん学ぶことができました。まず、アメリカに来て驚いたことは、日本とは違いとても寒暖差が激しかったことです。朝は涼しいけれど、昼になると急に暑くなって、夜になったらとても寒いので、慣れるまでとても大変でしたが、すぐに慣れました。そして、さらにびっくりしたことは、英語がなかなか通じなかったことです。アメリカ人の英語は、とても速くて聞き取れないことが多くて、何回も聞き直して、会話が長くなる時もあり、外国人の方と本格的に会話するのは初体験だったので、アメリカに着いてから3日ぐらいいは、会話に慣れるまでとても緊張していました。アメリカは、すべてが大きくて、食べ物もカロリが高かったので、前半は食べきれなかったけど、後半からすべて食べることが出来ました。街の中もとても広くて、様々な人種の人々がいて、まさに世界とつながっている国だと思いました。いろいろなところを訪問して、アメリカの歴史や文化、日本との関係などをたくさん学習できました。一番印象に残ったことはメジャーリーグです。野球を観戦したのは初めてだったので、実際に観てみると球が結構速く感動しました。そして、「一生忘れられないような思い出は、三日間のホームステイです。」「ホームステイのお宅にホームステイしました。ホームステイでは、KarenさんとDaneさんもとても親切で、楽しい三日間を過ごすことが出来ました。プールに遊びに行ったり、買い物をしたり、とても楽しかったです。この10日間は、自分自身も大きく成長でき、外国に

夢のような10日間

松山市立湯山中学校 玉井 晴菜



優しくしてくれたホストファミリー

サンフランシスコ空港を出てみんなが口をそらえて言ったのは、「寒ー！」その一言でした。湿度が少なく涼しいとは研修で聞いていたけれど、ここまで涼しいとは思いませんでした。こうしてスタートをきった夢のようなアメリカでの10日間でした。

私は、この10日間たくさん学ぶことができました。その中で一番心に残っていることは、アメリカの方々、私たちにとても優しくしてくれたことです。オールドサクラメントやホテル内のお土産屋さんでは、コインの使い方が分からず戸惑っていると店員さんが手伝ってくれたり、ワーナーブラザーズバックヤードツアーで友達と一緒に写真が撮りたかったので、誰かに頼もうとおどおどしているところ、アメリカの方が撮ってくれたりしました。また、私は私ともう一人の派遣生でホームステイをさせていただきました。その時に、ホストファミリーの方が、私たちに分かりやすいようにゆっくり喋ってくれたり、聞き取れず戸惑っているともう一度言ってくれたりしました。

このように、私はたくさんの人に優しくしてもらい、とても充実した10日間を過ごすことができました。また、この派遣に行けたこと、何事もなく日本に帰ってくることができたこと、この派遣に関わってくれたすべての人のお陰なので、感謝しています。本当にありがとうございました。アメリカで過ごした10日間は一生忘れません。



ドキドキホームステイの始まり

大切なことは挑戦

松山市立椿中学校 津田 晃佑



エンデバー

「出来ないことはない」と自分に言い聞かせながら、今回の派遣では、たくさんの方に挑戦できるような臨みました。

初めに難しかったのは、なかなか聞き取ることができなかった入国審査です。緊張があり、何を言われているか全くわかりませんでした。ジェスチャー等を交え、なんとか通過することができました。少しずつ緊張がほぐれて、目新しい風景にも馴染み始めました。

そのなかで印象深く残ったことが二つあります。一つは、スペースシャトル「エンデバー」を見ることができたことです。過去25回も飛行したエンデバーは、想像をはるかに超える大きさで、サイエンスセンターに移動するときには、道路を閉鎖していたということを知りました。

もう一つは、全米日系人博物館で、過去厳しい差別を受けたながらも、弱音を吐かずコツコツと働いていた日系人がいたから僕たちがアメリカを訪れた時に、分け隔てなく接してもらえたと聞き感動と感謝の気持ちをもちました。研修中にはたくさんの方の経験談を聞き、何事にもチャレンジ精神は大事だということも学びました。この経験を生かし、何事にも自分から進んで挑戦したいと思いました。

研修を支えて下さった皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに、再びアメリカの地を踏みたいと思える研修になりました。

新田青雲中等教育学校 中田 真綾

私にとってアメリカは憧れの地です。そのアメリカに派遣生として行くことができ、夢のように。私は海外に行くのは2回目でしたが、10日間アメリカで過ごすことにあまり不安はありませんでした。

また、英語には少し自信があったので、アメリカの人と何となく会話が出来るだろうと高を括っていました。しかし、その自信は跡形もなく打ち砕かれました。相手の話のスピードについていけず、分からない単語も多く、自分が伝えたい思いを上手く言葉にすることが出来ませんでした。悔しくてどうすることも出来ず、今の自分には英語力がほとんど無いことに気がきました。英語でコミュニケーションをとるためには、もっと英語力を身につけなければと実感しました。

この派遣ではアメリカの同年代の人々と関わる機会がたくさんありました。松山からの派遣生同様に様々な考えや夢を持っていました。ホームステイ先のAnnabellaはミュージカルを、Weslieはサッカーを熱心にしていました。わたしも夢や希望を叶えるために努力したいと思いました。

今回訪れたサンフランシスコやサクラメント、サンディエゴ、ロサンゼルスはアメリカの一部として海外のほんの一部にすぎないのかもしれない。それでも私は今後の人生を変えるような経験をさせて頂きました。引率の先生方アメリカ班の仲間、そして今回の派遣に関わってくださった全ての方々に感謝しています。アメリカで学んだこと、経験したことを活かして、これから海外と深く繋がりたいです。本当にありがとうございます。



ホストファミリーと

Speak loudly!! Don't be afraid!!!

愛媛大学教育学部附属中学校 布 ころこ

アメリカでの経験で、「こうすべきだ。」と思うことが二つあります。

まず二つ目は、Speak loudです。大きな声で話さない話を聞いてもらえません。下手をすれば存在さえ気付いてもらえません。

文法や間違いを気にせず、とにかく大きな声で話しかけてみるのが大切です。最初は恥ずかしいと思うでしょう。しかし、大きな声で話しかけ、まず自分の存在に気付いてもらうことが大切なのです。そして相手の注意を引いた後で、こちらの意見や気持ちを真摯に伝えることで、その後の会話がスムーズに進むようになります。

二つ目は、Don't be afraidです。失敗してもそこで決して立ち止まらず、すぐに次の行動を起こすように心がけました。そうすることで、失敗はしても後悔することは少ない経験が出来ました。なにはともあれ「相手の懐に飛び込め」の精神で臨むことが大切です。アメリカでの実体験で学んだこれらのことを、将来に活かしていこうと思います。



自分の将来の方向性が見えるきっかけとなった州議事堂

アメリカという場所

愛光中学校 橋田 岳人

僕は今まで海外に行ったことが一度もありませんでした。そんな僕に今回のアメリカ研修は、良い刺激を与えてくれたと思います。

行きの十時間のフライト、帰りの十二時間のフライトは、意外としんどかったです。入国審査では、強面の審査官に当たってしまったのですが、パスポートを見せると「こんちは〜。」と言ってくれたので安心して審査を受けられました。

まず、アメリカに来て英語の意識が変わりました。ホストファミリーやお店の店員さん、ミッドウェイ博物館やサンマルコス校で交流した高校生と話すと、大概中学英語で通じたのです。でも、相手の方々が気を遣ってくれたから通じたのだと思います。相手の方に気を遣わせないよう英語の勉強をもっととまじめにしたいです。

次に、必ずしも豊かな人だけではないということです。オールドサクラメントに行ったときにごみ箱に体を突っ込んでいる人や1ドルを要求してくるおじさんがいました。自分は豊かに暮らしていることに感謝しなければいけないと思いました。

さらに、アメリカの怖さを知りました。ハリウッドの通り沿いで二階に写真撮影をするだけで百ドルも取るキャラクター、よくわからないCDに三百ドル請求されたりする現場を見て、日本がいかに平和なのか痛感しました。

今回の研修がうまくいったのは、久米校長先生、成谷先生、土居先生、サニーさん、松本さん、水田さん、JTBの石原さん、添乗員の青木さん、姉妹都市協会のグロリア会長、派遣生のみなさんとその他の関係者のみなさんのおかげです。それと自分を支えてくれた両親にも感謝です。本当にありがとうございます。



離陸指示のポーズ(ミッドウェイ博物館)

人との出会いと夢

済美平成中等教育学校 橋本 梨鈴

今回のアメリカ研修は私にとって初めての海外だったため、全てがとても大きな経験となりました。

様々な場所を訪れ学んだことは数えきれない程あり、全てが私にとってかけがえのない宝物になりました。特に、私がこの研修を通じて一番に学んだことは「人との繋がりに」についてです。アメリカ班の仲間や先生方とはもちろん、訪問先で出会う、私たちが大いに歓迎してくださった方々との繋がりを大切にすることができました。彼らとの交流で自らの将来について深く考えたことは大きな財産です。

当たり前のことですがアメリカでは日本語がほとんど通じません。そのため、自分の知っている言葉や文法を最大限に生かし、コミュニケーションをとることが重要です。実践的な場面に出たのは初めてだったので、アメリカに着いてすぐの私は手こずるばかりで自分の感情を伝えることもままなりません。しかし、

「Don't be shy」夢を最後まで追い続けることが私の目標です。今の私には沢山の夢や目標があります。今できることを着実にやり遂げ、大切に、将来世界に大きく羽ばたきたいです。



With My Friend

家族や仲間、先生、スタッフの方々、出会った方々への感謝の気持ちを忘れずに毎日過ごします。

松山市立久米中学校 正岡 桃奈

宝物の10日間

あつという間だった十日間のアメリカ研修。毎日が驚きと発見の連続でした。そして、たくさん

の視野の狭さと英語力の未熟さを痛感しました。特に心に残った場所はミッドウェイ航空母艦博物館です。初めて見たその景色は忘れられず、目が奪われました。館内には、たくさんの写真や模型など色々な物がありました。最上階の甲板には航路と本物の引退した戦闘機がたくさん並んでいました。ここから戦地に向かうため、多くの人が旅立って行ったのかと思うと、胸



ミッドウェイ航空母艦博物館

が痛くなりました。ミッドウェイという名前は、聞いたことはありませんが、実際訪れてみると、大きな外観や充実した部屋や展示室に感心するだけでなく、戦争を伝える貴重な資料もたくさんありました。アメリカに行くと、自分も戦場に行きたくありません。間違っていても、とにかくコミュニケーションをとることが大切だと分かりました。しかし、現地の人との会話の速さは到底追いつけず、また、会話の中で聞き取れないこともあったので、これからは聞き取る力を身につけ、次回ケンさんに再会した時には、自分の思ったままに会話出来るようになっていたいと思います。

また、今回の派遣では、多くの人たちの支えにも気付くことができました。多くの方々のおかげでこのような経験をさせていただいたことを忘れずに過ごしていきたいです。

アメリカに行って

愛光中学校 宮崎 貴来



ミッドウェイでの思い出

約十時間のフライトを経て、アメリカに着きました。その時の上空から見た光景は今でも忘れられません。そこにはほとんど山がなく、平地ばかりで、この時点で日本とは明らかに違うと感じました。

カリフォルニア州立大学サンマルコス校では、交流活動をしました。僕は、現地の日本人1名と派遣生2名でグループをつくり、ゲームやお題について英語で話をしました。その人は、アメリカが上手だったので驚きました。

案内していただいた日本人の方も英語が上手だったので、「どうやってそんなに英語が上手になるのですか。」と聞いてみました。するとその人は、まずは受験英語をしっかり勉強し、それだけでは英語は聞き取れないので、アメリカではなるべく日本人ではなくアメリカ人と友達になつて、聞き取りたり話したりする力を身につけているそうです。

サクラメントでは、ホストファミリーのケンさんや他のファミリーと一緒に、オールドサクラメントやトレジャージョーズへ行きました。その時ケンさんは、その警察官とても楽しそうに話していました。サクラメントの方はみんなフレンドリーで、日本では考えられないと感じました。

今回の派遣で「Don't be shy」を目標としていたので、どんどん話してみました。僕の英語は間違っているところもあったと思います。それでも、現地の人は一生懸命理解しようとしてくれました。言葉が通じた時の気持ちは、今でも忘れられません。間違っても、とにかくコミュニケーションをとることが大切だと分かりました。しかし、現地の人との会話の速さは到底追いつけず、また、会話の中で聞き取れないこともあったので、これからは聞き取る力を身につけ、次回ケンさんに再会した時には、自分の思ったままに会話出来るようになっていたいと思います。

また、今回の派遣では、多くの人たちの支えにも気付くことができました。多くの方々のおかげでこのような経験をさせていただいたことを忘れずに過ごしていきたいです。

夢への第一歩

松山市立北条南中学校 山本 花音

私は、この10日間の研修で素敵な体験がたくさんできました。その中でも心に残っているのは、全米で階段の数が2番目に多い、カリフォルニア州立大学サンマルコス校を訪問したこと。階段の数だけではなく、広さは東京ドーム26個分というところで、移動は大変でした。

教室もたくさんあり、様々な施設も整っていました。私が驚いたことは、いろいろな国からやってきた人が集まっていることでした。地球上には、様々な人種がいることを実感することができました。大学内では、大学生と交流をしました。まず、お互い自己紹介をし合ったり、日本の学校のことについて話したりしました。大学生との会話は全て英語です。だから、聞き取るのが難しかったです。それでも大学生は、ゆっくり何度も質問を繰り返してくれました。そのおかげで少しですが、会話が出来ました。嬉しかったです。

最初に宿泊した大学寮では、朝7時からぎやかに朝食を食べていました。学生はみんな笑顔で楽しそうでした。充実した学生生活を送っているんだと感じました。アメリカの大学に通うのもいいなと思います。自分の将来についても深く考えることができる研修となりました。



派遣生みんなと

思い出ランキング



面白かった
見学地
ランキング

美味しかったもの
ランキング

1位 ハンバーガー

特にIN-N-OUTが人気!

2位 ピザ

3位 スパゲティ



1位 ワーナーブラザーズ
バックヤードツアー

2位 カリフォルニア
サイエンスセンター

3位 サンディエゴ
ミッドウェイ
航空母艦博物館



びっくり
したこと
ランキング

1位 アメリカ人の気さくさ

2位 道路の違い (広さ、車線数の多さ、高速道路が無料!)

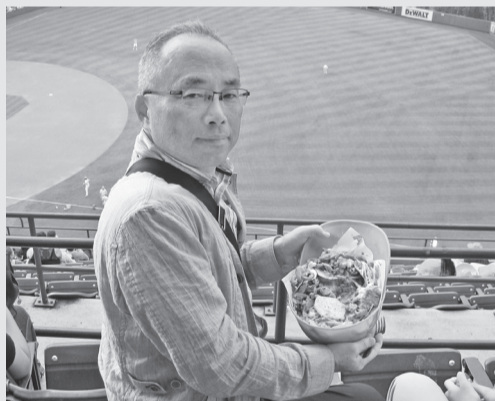
3位 食べ物の大きさ



このような貴重な研修機会を与えていただいたことに対して改めて感謝の気持ちを表すとともに、田中さん、成谷先生、土居先生、青木さん、本田さんにおつかれさまでした。そして、派遣生としての重い使命をチャヤンと捉え、自覚ある言動のもと10日間がんばった20名の生徒のみなさん、みなさんのことを本当に誇らしく思っています。

派遣団員には3つの使命がありました。他国での出来事に対して関心をもつ。異なった価値観を認める。コミュニケーション能力を備えた人になる。つまり、国際人になることです。もちろん帰国後すぐにこの目的が達成できるわけではありません。また、海外渡航回数によってそれが養われていくものでもないと思います。大切なことは今後の身近な生活において、今まで以上に他人を思いやり、自分と異なる人の意見や考えを尊重していくことだと思います。そして、そのための大切な道具が言葉です。今回の異文化での生活体験で私たちはそのきっかけをしっかりと掴むことができました。また、日本文化及び日本人としてのアイデンティティーについても振り返ることができました。

私たちアメリカカ班はカルフォルニア州における研修の全日程を終え、8月4日夜松山に全員無事に帰着しました。サクラメント滞在中は、グロリア会長様を初めとする姉妹都市協会の役員の方々の心温まるおもてなしを受け、ただただ感謝の気持ちでいっぱいでした。



メジャーリーグ観戦

団長 松山市立三津浜中学校
校長 久米 倫典

引率の
先生方
国際人となるために



ミッドウェイ空母の前で日米友好

これからの社会、国家や地域という境界を越えれば、人類は、地球規模で結びついていかなければならない。今回、二十名の選士が経験した十日間は、その先駆けとなり、かけがえのない財産になるであろう。彼らは、自国を愛し、他国を尊重できる友好の架け橋として、国を担っていく存在になってほしい。

暗号解読により日本に奇襲をかけたミッドウェイ海戦の空母や、国際宇宙ステーションの組み立て補給のミッションを果たしたエンターバーなど、国の威信をかけたアメリカの歴史や文化に肌で触れ、旺盛な意欲と行動力、前人未踏の分野に果敢に踏み込み、大國として発展してきたアメリカの国力やプライドに、心から敬意を表すことができた。同時に、他国を知ることにより、自国を愛でることができたことも、収穫の一つであった。

姉妹都市協会の方々の温かい出迎えに、子どもたちは、学んできた構文や知りうる限りの単語を用いて、自分の思いを伝えようとす。例え、言葉がうまく通じなくとも、相手の思いを察しようとする。ウエルカムパーティーでは、自国の文化を熱心に伝える文化を吸収しようとする彼らの姿に胸を打たれた。

アメリカ行きの切符を手に入れることができた選ばれし二十名は、逸る気持ちを抑えてカリフォルニアの地に降り立った。まず目に飛び込んできたのは、広大な土地、立ち並ぶ巨大施設、ダイナミックなハイウェイ。それらのスケールの大きさに、彼らは目を奪われた。

松山市立湯山中学校
教諭 土居 由里果

輝ける
フロンティアスピリット



何事に対しても積極的な研修生20名がサクラメント姉妹都市協会を含む多くの方々と交流する中で、個々の人間力が日に日に向上する姿に、頼もしさを感じさせられた10日間のアメリカ研修であった。伝えたいことを伝えられず困惑したとしても、ホームステイ先のファミリーや仲間が、表情と目を見て理解してくれていた体験は、決して座学では学ぶことができないことであつたらう。

日本に「おもてなし」があるように、アメリカにも「おもてなし」があることを、行く先々で実感した。サクラメント姉妹都市協会の方々の「おもてなし」は声かけだけではなく、笑顔、絶えさせない工夫がなされていた。心の豊かさを感じる交流の日々であった。

メジャーリーグ観戦では、試合直前雷をとまぬ豪雨となったが、運良く試合はプレーボールされ、「アナハイムエンジェルス」の熱烈なファンの横に座ったことでスタジアムと一体化することができた。「あなたはだれ? 何者?」という問いは無意味であった。何かにのめり込む積極性が、物事をより良いものにする可能性があることを学んだ。熱烈なファンがどのような人生を歩んでいるのか、自分自身がどのような人生を歩んでいるのか、時として必要な時もあるが、人それぞれ、心地良い環境は自分がめり込むものがあり、積極性があれば、後悔しないものである。今後、アメリカでの体験・経験を研修生一人一人が心の片隅に置き、異国の大切な人を思い、積極的に姉妹都市への活動に参加することが貢献となると信じている。

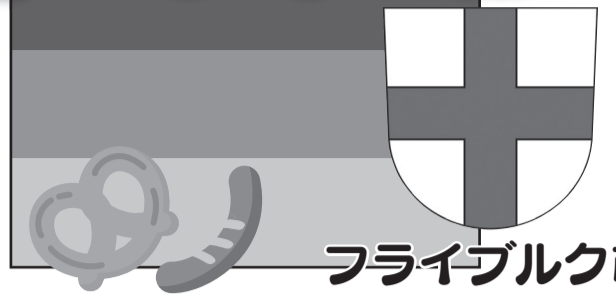
済美平成中等教育学校
教諭 成谷 周治



サクラメント姉妹都市協会の方々

Who am I?
自分とは?

ドイツ班



フライブルク市

愛媛県立松山西中等教育学校 池内 友輝



ユングフラウ

僕は今回の派遣中、自然環境に注目して過ごしました。まず、街路樹は、日本よりかなり多く、大きく、樹齢も長いようでした。松山の第一の交通手段は自動車ですが、フライブルクも昔はそうでした。その結果、大気汚染になり、森が枯れるなどの被害があったため、自動車をあまり使えないようにし、主な交通手段を徒歩、自転車、トラム(路面電車)にしたそうです。

フライブルクには街路樹が多いので、街中でも雀や鳩が松山より多く見られました。特に鳩は、模様や色の異なるものが多く見られました。

ホームステイの二日目、ホストファミリーと家から徒歩、トラム、駅から電車に乗って約1時間かけて自然保護区のティティ湖へ行きました。駅を降りて湖まで森の中を1時間以上歩きました。遊歩道の脇には野イチゴなどがなっていて、みんな自由にとって食べていました。酸味が少し強かったですが、美味しかったです。

<ドイツ班日程>

第1日	7月22日(土)	松山発 フランクフルト着後、 フライブルクへ移動
第2日	7月23日(日)	ホストファミリーと過ごす
第3日	7月24日(月)	ゲーテ校訪問 エコステーションで環境学習 BBQパーティー
第4日	7月25日(火)	フライブルク旧市街 市役所表敬訪問 フライブルク大学
第5日	7月26日(水)	ヴァルトハウス ドイツ語体験学校
第6日	7月27日(木)	エメンタールチーズ作り体験 スイス・ベルンへ
第7日	7月28日(金)	トゥーン湖クルーズ ハーダー展望台 インターラーケン ハイキング
第8日	7月29日(土)	チョコレート工場 国際連合ヨーロッパ本部 国際赤十字博物館
第9日	7月30日(日)	ジュネーブ市内 レマン湖畔、カシャの泉 ジュネーブ発
第10日	7月31日(月)	松山着

インターラーケンにあるハーダー展望台やベルンのアール川などには、ごみがありませんでした。特にアール川は、川の端の方に日本のごみが溜まっていなかったのが印象的でした。

フライブルクやスイスの街を見て、特にフライブルクでは、自然と共に暮らし、少しでも自然を守ろうという意思が伝わってきました。松山もフライブルクのように、バスや路面電車の交通網をさらに整備し、自然環境を守る努力が必要だと思いました。

ドイツで学んだこと

新田青雲中等教育学校 井上 聡花

約12時間のフライトを終え、空港に降り立った瞬間「ずっと憧れていたドイツに来たんだ」と喜びで胸が高鳴りました。

私は、今回の研修で2つの目標を掲げていました。1つは、ホストファミリーとの交流を深めることです。つたない英語でも恥ずかしがらずに積極的に会話をし、日本のこと、松山のこと、そして私自身のことを知ってもらいたいと考えていました。時にはジェスチャーを交え



Alma と市庁舎の前で

愛しいフライブルク

松山市立勝山中学校 井上 夢乃

たくさんの期待と不安を胸に、私はドイツへの第一歩を踏み出しました。初めて見る街並みに、耳に入ってくるのはドイツ語ばかり。自分が異国の地に来たことと実感するまでに時間がかかったのを今でもはっきりと覚えています。

ホストファミリーはとても親切で、いつも私たちのことを気にかけてくれました。ハイキングや学園祭に連れていかれたり、パーティーを企画してくれたり、全てが素敵な思い出です。その中でも一番の思い出は、パートナーの「ごちそうさまでした」です。最初は英語に自信がなく、「ごちそうさまでした」を覚えてくれた。でも、最後の二日間は、まるで昔からの友達のようにお互いの国のことや普段の生活のことなどを話しました。「ちゃんと会話が

ながらたくさん会話し、たくさん笑い合い、気持ちを通じた喜びは、とても大きかったです。2つ目は、国際協力について学び、理解を深めることです。私には「世界を舞台に活躍する」という将来の夢があり、国際連合ヨーロッパ本部への訪問は何より楽しみでした。見学した会議室の天井や壁にそれぞれ巨大なアートがあり、その二つにメッセージが込められているのが印象的でした。テレビ等で立っている、そのことが改めて私の夢への強い決意となりました。

今回の研修を通じて「前向きに取り組む」ことの大切さを学びました。なりたいたい自分になるために、自分自身で考えて行動できるよう、そして、いつの日か、ひと回り成長した自分になってドイツを再訪したいです。

Danke schön!



リリーとのお別れ

できている、「私の英語も通じるんだ」という大きな自信になりました。

フライブルクは、言葉では伝えきれないほど素敵な街で、すぐに大好きになりました。街並みはまるで絵に描いたように美しく、人々もとても親切でした。特に高台から見た夜景は息をのむほど素晴らしく、また必ずこの街に戻ってくる心の中で誓いました。行く先々で多くのことを学び、数えきれないほどのことを吸収して帰ったこの研修、このような機会を与えてくれた多くの人々、そして松山市に何か恩返しができるように頑張りたいです。そして、松山市とフライブルク市の架け橋となっていきたいです。

外国で学んだこと

愛媛大学教育学部附属中学校 上田 侑祈

ホームステイ先の人達と仲良くできるのか、英語がちゃんと使えるのか、そして聞き取れるのか。僕にとってドイツは初めての海外だったため、最初は不安でいっぱいでした。

しかし、それは杞憂に終わりました。ホームステイ先の人達はとても優しく、英語もちゃんと聞き取ることができました。ドイツは、街並みも料理も日本と全く違ってびっくりしました。僕が1番気に入ったのは、ソーセージです。



My friend

私の第二の家族

愛媛大学教育学部附属中学校 戒能 日向子

私のイメージしていたヨーロッパの街並みと同じ景色を見た時、ついに海外へ来たことと実感し、感動しました。ホームステイ中、笑顔で私を迎えてくれたホストファミリーと共にドイツの国境を越え、フランスの湖に行きました。湖までのハイキング中、ドイツのこと、日本のことをお互いに教え合いました。16歳のアンは日本のお互いに教えました。たたくさんの日本語を知っていました。みんな、とてもゆっくりと英語を話してくれ、私もジェスチャーを交えて一生懸命話しました。すると、私たちの距離もぐっと縮まりました。3時間のハイキングの後、目の前には迫力ある山と森と湖が現れました。それはとても雄大な景色で私の人生の中で最も美しいと感じた景色でした。昼食は日本では見たことのない長さのソーセージを頂きました。ホストファミリーとの日々は初めて体験することばかりでとても新鮮でした。5日後の別れはとても悲しかったですが、心から彼女たちに



ホストファミリーとの最後のお別れ

出会えてよかったと思いました。

この研修を通じて、言葉がうまく話せなくても伝えようとする気持ちがあれば、コミュニケーションをとることができると感じました。そして、これからもっと英語を勉強して、自分の気持ちを正確に伝えられるようになりたいと強く思いました。今回体験して得ることができた貴重な学びを、これからの生活に生かしていきたいです。ダンクシェン!!

自分を変えた

ドイツでの夏

愛媛大学教育学部附属中学校 加藤 瑠菜



お父さんとヨハナと溪谷で

長時間のフライトの後、初めての海外、ホストファミリーとの生活への期待に胸を膨らませ、私は異国の地へ足を踏み入れました。ホストファミリーとの対面の後、私は家に向かうまでの車中では名前ぐらいしか言えず、これから大丈夫なのか?という不安と緊張が、襲ってきました。

しかし、翌朝家の近くの森にパートナーのヨハナと二人で散歩に出かけ、森の中を歩きながら思い切ったたくさん質問をしてみると、心が打ち解け始めました。ホストファミリーはゆっくり丁寧な話してくれました。自分の意思も伝えやすくなりました。ホストファミリーは私の父に見た目も雰囲気もそっくりで更に安心しました。日本のお土産も喜んでくれ、日本に興味も持ってくれました。

またドイツでは景色の美しさに感動しました。特にスイスのハーダー展望台から見た景色は、湖、街並み、山々が気に見え、贅沢な気分を味わえました。

私が何よりも感じたのはドイツ人の自由さです。日本では毎日やるべき事や時間に追われて生活し、日が終わります。しかしドイツでは学校は大体午前で終わり、午後は自分のしたいスポーツや習い事をします。ゆとりのある生活の中で、日常の忙しさを忘れて楽しむことが出来ました。

ホームステイ先の人達と仲良くできるのか、英語がちゃんと使えるのか、そして聞き取れるのか。僕にとってドイツは初めての海外だったため、最初は不安でいっぱいでした。

しかし、それは杞憂に終わりました。ホームステイ先の人達はとても優しく、英語もちゃんと聞き取ることができました。ドイツは、街並みも料理も日本と全く違ってびっくりしました。僕が1番気に入ったのは、ソーセージです。

今回の海外派遣は、自分の考えや生き方を
変えてくれました。最後に、海外派遣に関わっ
た全ての方々、全ての出会いに感謝します。

すでにきな出合いに感謝

松山東雲中学校

木谷 綾音

出発の3日前、5日間お世話になるホスト
ファミリーが決まり、憧れのドイツで研修がで
きる期待と喜びで心が躍りました。私にとつて
初めてのホームステイ。ワクワクしている一方で、
自分の意思を上手く伝えられるだろうかとい
う不安もありました。事前研修で学んだドイ
ツ語と英語を何度も復習しながら色々な場
面を頭の中で想像してました。日本を出発
して約15時間、心待ちにしていたホストファミ
リーとの対面。家に向かう車の中では心臓の
音が聞こえるくらい緊張して頭が真っ白にな
りました。何度も頭の中で想像していたにな
かなか話しかけることができず情けなく思っ
ていると、ホストシスターのMAYとNORAが
積極的に話しかけてくれ徐々に緊張も解けて
きました。

FAMILY DAYの日はドイツ最大のテーマ
パーク「ヨーロッパパーク」で絶叫マシンに乗った
り、欧州各国の町並みを再現したエリアを散
策したりしてREDA FAMILYと一緒に楽し
い時間を過ごしました。私たちの距離がぐっ
と縮まったようでした。お互い母国語ではない
英語での会話が少しずつ成り立ち、自分の気
持ちは伝えることができるようになりまし
た。フライブルクの5日間はあっという間で、親
切にして下さったREDA FAMILYとの別れ
に涙が止まりませんでした。いつかきっと立派
な国際人になって会いに行こうと心の中で強
く思いました。

最後に、このような素晴らしい経験をさせて
いただき感謝の気持ちでいっぱいです。



お世話になった REDA FAMILY

充実した10日間

済美平成中等教育学校

倉田 真由佳



ホストファミリー

ドイツへ旅立つ前、私は「少しでも成長して
帰ってくる」という目標を立てました。私は
普段の生活に緩みが出ている傾向にありまし
た。この状況を何とかしてでも抜け出したいと、
この研修に懸ける思いがありました。

ドイツに着いた当日、早速ホストファミリー
と対面しました。自分は直接コミュニケーション
が上手くとれるのか、不安と緊張で足が震
えましたが、意思を一生懸命伝えようとす
るホストファミリーに心を動かされ、これから頑
張ろうと思えました。ホームステイは5
日間という短い時間でしたが、たくさんの経
験をさせてもらいました。パートナーのLisaと
演劇を見に行った時や、彼女の友達とフリ
マケットや町で遊んだ時には日本との違いを
肌で感じる事ができました。別れの時は離れ
るのが嫌で、涙が止まりませんでした。

ドイツの後に訪れたスイスで最も心に残って
いるのはスイスとフランスの国境を挟んで、お
互いの文化や歴史への理解の違いから、住民ど
うしに誤解や悪感情が生まれてしまうこと
もあるという話です。国々が互いに仲よく暮
らしていくには何が必要なのか深く考えさせ
られるものとなりました。

私はこの研修の期間中、多くの人にお世話
になりました。この経験を無駄にせず、自分で
も成長したと思えるような行動を今後してい
きたいと思います。この研修に関わった全ての
方々に本当に感謝しています。



フライブルクから 学んだこと

松山市立勝山中学校

児玉 顕信

今回初めて海外に行き、自分の英語能力の
低さやドイツの文化、コミュニケーションをとる
ことの難しさと大切なことなどを体験
しました。

今回の派遣で1番心に残っていることは、
ホームステイです。パートナーのエリアス君やホ
ストファミリーは迎えに来てくれた時から優し
く話しかけてくれ、ホストマザーはいつも体調
や身の回りのことに気を遣ってくれ、安心
して5日間過ごすことができました。2日目の
フリーの日は、ホストファミリーの知り合いの人
たちと一緒にハイキングに行きました。エリアス
君とはよく話すことができたのですが、聞きな
れない言葉が飛び交う中にあることで、落ち着
かず最初は不安でいっぱいでした。しかし、初
対面でも積極的にかしめてくれる男性と
仲良くなれ、楽しむことができました。

英語を片言でしか話せない僕にとつて、言語
の壁は大きかったです。しかし、友情に壁は
ないと思えるくらい、エリアス君やたくさんの
人と仲良くなれました。今回学んだことは、
きっと今までの自分を新しいものに変えてく
れたと思います。次ドイツに行くときは、ドイ
ツ語で会話できるようにしたいです。



ホストファミリーとハイキングの途中で

The best of summer!

松山市立余土中学校

坂本 心美

「ドイツに着いた!」ドイツに着いた喜びや
興奮とともに、5日間のホームステイへの不安
が込み上げてきました。フライブルクでは、ホス
トファミリーが私たちを笑顔で迎えてくれま

した。私はその笑顔を見て、不安は消え、これ
から始まるホームステイに胸が高鳴りました。
翌日、ホストファミリーと森湖に行きました。
車の中や、歩いている間、パートナーの「コ」が
いろいろな話や質問をしてくれて、とても話しや
すかったです。「文法は合っているかな?」「通
じるかな?」と不安でいっぱいでしたが、「コ」が
しっかりと話を聞いてくれて、話していくうち
に段々と自信が湧いてきました。ホストファミ
リーとの会話を通して、英語で会話すること
の楽しさを学びました。5日間のホームステイ
はとても充実していました。あつという間にホ
ストファミリーとお別れが…。別れる時には
たくさんのお話を思い出して、伝えきれなかつた
思いが溢れ、涙が止まりませんでした。私は最
後に、5日間の感謝の気持ちを込めて「Danke
schon!」(ありがとう)と伝え、バスの中から見
えなくなるまで精一杯手を振りました。スイス
フランスの研修でも、とても素敵な貴重な体験
をさせていただきました。この海外派遣活動の
経験を、必ず今後の生活に生かしていきます。

最後にドイツ班の仲間、引率の先生方、添乗
員さん、国際交流センターの方々、学校の先生方、
そして家族に感謝します。Danke schon!



Last dinner

初めてだらけの10日間

松山市立三津浜中学校

菅谷 永

日本を出発して12時間、フランクフルト空港
に着いた。僕は、「本当にドイツに来たんだ」と
いう喜びから、思わず飛び跳ねてしまった。空
港ですれ違う人は、皆外国人ばかりで、外国に
来たことを実感した。それと同時に、英語で上
手くコミュニケーションがとれるのかという不安
がこみ上げてきた。しかし、その不安もホスト
ファミリー、マザー、パートナーのゼバスティアン君
のおかげで、段々となくなってきた。僕のホス
トファミリーは、とても優しく接してくれた。ジェ
スチャーや辞書を使いながら、何とか会話をし

た。その夜、僕がお土産に持参した寿司ゲーム
で、盛り上がった。派遣最終日には、飛行機に乗
る際、自力で交渉したことで、コックピットに入っ
て、写真を撮ることができた。初めは何とか通
じていた英語も、毎日積極的に使うことによつ
て、身につけていくのだと実感した。

また、ホストファミリーの車で、フランスに連
れて行ってもらった時、運転中のファミリーが、
「Fast or slow?」と聞いてきた。僕が「Fast」
と答えると、時速300km/hで車を走らせた。ドイ
ツにはアウトバーンがあることをマザーが教えて
くれた。

その他にも今回の研修で様々な体験をした
り、学習したりした。どれも僕の今後の人生に
大きく影響をもたらすものばかりだろう。



Sebastian さんと一緒に

ホストファミリーとの 5日間

松山市立北条北中学校

徳永 一花

私は、今回の海外派遣でたくさんのお話を
経験し、学ぶことが出来ました。特に充実し、
多くのことを学ぶことが出来たのは、ホスト
ファミリーと過ごした5日間でした。初めて
行った海外で、1人でホストファミリーと過ご
すのは、とても不安でした。1日目の車の中
では、緊張してしまい、聞かれた質問に答えるこ
とが精一杯でした。
しかし、2日目にはホストファミリーと少し
の単語をつなぎあわせてコミュニケーションをと
ることが出来ました。自分が言っている事が相



メリサと黒い森で

手に伝わった時は、とてもうれしかったです。
3日目の出し物では、もっと仲良くなること
が出来ました。日本語でしか分からない言葉も、
ジェスチャーや単語をならべて説明することが
出来ました。

それからは、失敗をおそれることなく会話を
していくことが出来ました。自分の言いたい
ことが通じると会話するのが楽しくなりまし
た。最後のお別れでは、今までの感謝を伝える
ことが出来ました。最後の日にしっかりと自分の
思いを伝えることができてうれしかったです。

私は、この5日間ホストファミリーと過ごし
たことで大事なことに気付くことができた
ことや失敗をおそれることなく挑戦してい
ることです。この海外派遣で学んだことをこれ
からの学校生活に生かしていきたいです。そし
て、両親をはじめとする多くの人たちへの感謝
の気持ちも忘れないように過ごしていきたい
です。

憧れの地で学んだ夏

松山市立勝山中学校

友田 結子



ホストファミリーとのランチ

初めての海外「ドイツ」、小さい頃からの憧
れのヨーロッパにこんなに早く行けるとは思っ
てもいませんでした。

一番に残っていることは、ホームステイで
す。ホストファミリーに会うまでは、ほとんど
緊張がありませんでしたが、実際に会ったと
たんに一気に緊張が押し寄せてきました。しか
し、ホストファミリーはとても優しく、笑顔で
接してくれたので、少しずつ緊張がほぐれてい
きました。パートナーのシャルロットと弟は日本
のおもちゃについて興味を持っていたので、ジェ
スチャーや知っている英語の単語をできる限り
使って説明すると、家族みんなが楽しんで遊ん
でくれました。

私は、10日間の海外派遣において、ドイツ、ス
イスフランスと国境を越え、日本と外国との

違いを多く体験し、日本の良さに改めて気づくことができました。また、英語を上達させていくうえで必要な力や自分に足りていない力を知るとともに、失敗を恐れずにチャレンジする大切さを学ぶことができました。

この貴重な経験を今後の生活に活かしていきたいです。今回の派遣を支えてくださった方々にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。 Danke schön!

乗り越える壁

松山市立雄新中学校 永井 結菜



ホストファミリーと

ホームステイの初日は、初めてばかりの環境に慣れる事が出来ず、ほとんど受け身の状態が続いていました。けれど少し慣れてきた3日目からは、積極的に言葉発することが出来るようになりました。ホストファミリーの方も私が以前に比べて明るく積極的に話すようになったことを喜んでくれて、以前は聞けなかったような話を沢山してくれました。間違えたら私の英語を一生懸命聞いてくれ、理解し優しく受け止めてくださいました。

その中でも、Oliveと数字の数え方について教えてくれたことが一番印象に残っています。何故なら、この話題が初めて自分から話すことが出来たことだったので。始めに5までの数字を覚えてもらったのですが、毎回4のところで詰まってしまい、同じところで間違えるからOliveも笑って、私も笑ってしまいました。次に私が日本の数え方を教えました。そしたら1回で覚えてしまつてビックリしました。悔しかったので、呪文のように1(eins), 2(zwei), 3(drei)...と唱えていたら友達に笑われてしまいました。

楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、お別れの時は泣きたいのをグッと堪えました。この研修以降もメールなどでやり取りをして交流を深めていきたいです。

長くなりましたが、まとめると私のこのレ

ポートから感じて欲しいことは、言葉の壁は自分から乗り越えていくものということです。今回学んだことを今後の生活に活かしていきたいと思えます。

初めての海外

済美平成中等教育学校 長井 祐也

僕は、フライブルクに到着する前、期待と不安でいっぱいでした。しかし、ホストファミリーは僕を温かく迎え入れてくれました。1日目の夜は、ホストファミリーがピザを作ってくれました。僕はとても大きいピザを見て、「外国に来たんだ」と改めておもしろいと思いました。2日目は、ホストファミリーと過ごしました。朝ご飯は、ハチミツとチーズとバターをつけて食べるパンと、ジャガイモの料理でした。昼ご飯はプレッツェルで、硬くてとても驚きました。その後、黒い森ハイキングに行き、夜ご飯は、パーベキューをしました。お肉や、ソーセージの1つ1つがとても大きく、おいしかったです。その時、16歳のパートナーがビールを飲んでるのを見て、日本との違いを感じました。英語があまり話せない僕に優しく、ホストファミリーは、お別れの朝には、ギター演奏をプレゼントしてくれました。ホームステイ中に、パートナーは何度も、「10月に日本に行くことを楽しみにしているよ」と言ってくれました。僕も10月に松山で会えるのを楽しみにしています。最後に、お世話になった人々に感謝をし、この経験を今後の生活の中でも生かしたいと思います。



ホストファミリーの家の前で

最高のHAPPY BIRTHDAY!!

愛媛県立松山西中等教育学校 野本 亜希

私はドイツで15回目の誕生日を迎えました。ホストマザーはチェリーケーキを作ってく

ました。チェリーケーキの正式名称は「黒い森のチェリーケーキ」でドイツの伝統的なお菓子です。次にホストのアルマはバイオリンで色々な名曲を聞かせてくれました。私と同年代なのにたくさん趣味を持っていて凄いなと思いました。私ももつと多くの事に挑戦して特技や趣味を見つけたんです。ホストファミリーのみんなは私にお祝いのハグをしてくれました。ファミリーの優しさや誠意が伝わって、私は本当に嬉しかったです。日本とはスキンスリップの仕方が違って、私は西洋の方が心の距離が近く感じ、良いと思いました。

また、電車の中で出会った女性にも誕生日を祝ってもらって嬉しかったです。見知らぬ人とも英語で会話できたので良い経験になりました。その女性は2年後くらいに京都に行くとおっしゃっていたので、京都や日本の良いところについて説明でき、派遣生としての役目を果たせました。

ドイツでの日々は私を本当に成長させてくれました。私をドイツに行かせてくださった方々に感謝し、さらに語学の勉強に励みたいと思います。



Almaとチェリーケーキと一緒に

たくさんの方々の支えと学びの10日間

松山市立垣生中学校 樋口 りさ

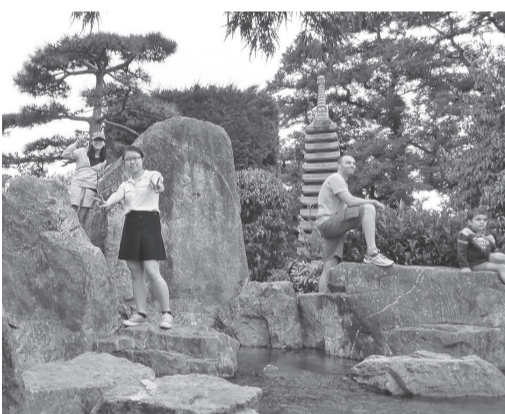
私の父は何度も海外へ行った経験があります。その父から、「海外では日本だけでは分からないことを知り、心の視野が広がる。」と小さい頃に聞かれました。その時から「海外に行きたい!」と願ひ続け、たくさんの方々に支えていただき、今回その夢が叶いました。

今回のドイツでの経験を通過して、1つの目標ができました。それは、これから英語をもっと勉強して、更にドイツ語も学び、フライブルク大学で環境について学ぶという目標です。

ホストファミリーには、私と同じ年のツアンという女の子がいました。ホームステイ初日、ツア

ンから英語で質問され質問の意味がよく分からないのに「イエス」と答えました。それは、「花火大会に行かない?」という誘いでした。夜遅い時間の、とても楽しかったけど、とても眠い花火大会になりました。意思疎通をすることの大切さをしみじみと感じる体験でした。ホームステイを通して、ツアンとは一緒に出かけた時、PAPAを踊ったりするうちに、お互いに伝えたいことがだんだん伝わるようになってきました。10日間を通して、外国の人々とコミュニケーションをとることは思っていたより簡単だと感じました。

今回の海外派遣で学んだことを、これからの生活や国際交流活動に生かし、友達にも広めていきたいです。そして充実した研修を支えて下さった方々、ありがとうございました。



友好記念の日本庭園で

私を変えた10日間

松山市立鴨川中学校 平井 琴菜

フランクフルトに着いて飛行機を降りた瞬間、日本との空気の違いに驚き、ドイツに来たことを改めて実感しました。窓の外に広がる初めて見る外国の景色は、まるで、絵本から出てきた世界でした。何を見てもすべてが新鮮で、驚きの連続でした。

今回の派遣で特に心に残ったことは、ホームステイでした。私は、ドイツに行ったら、積極的にコミュニケーションをとろうと考えていましたが、さすがにバスを降りていざホストファミリーと出会い「フライトはどうだった?」と聞かれても、頷くことしかできませんでした。私のパートナーのマイはとても優しく、いつも私達のことを気にかけてくれました。ですが、英語でうまく話せない自分にもどかしさを感じる場面が幾度かありました。マイがスマートフォンで調べた日本語を使って一生懸命話そうとしてくれるのを見て、私も知っている限りの英語を使って話そうと必死で自分の気持ちを伝えました。徐々に仲も深まり、最後の別れでは、

ハグをし合い、お互い涙をこらえながら、別れを惜しみました。

この派遣で私を感じたことは、もつと英語で自分の意志を伝えられるようになったという事です。そのためにもこれから語学の勉強に励みたいという目標ができました。今回の派遣は、自分の人生の中で貴重な体験になりました。この体験は私にとって一生の宝物です。もつとたくさん勉強して、いつかまた、フライブルクに行きたいです!

みと現地の人の明るさです。町並みはカラフルな家が並び、おとぎ話の中に入った様な感じがしました。そしてドイツ人はとても明るく優しいです。道を聞くか笑顔で教えてくれたり、明るくあいさつをしてくれたりしました。帰るときにはたくさんのお土産と一生忘れることのない最高の思い出を持って帰ることができました。これからもつと英語やドイツ語を勉強して、次は話せるようになってからまた訪れたいです。

ドイツで学んだこと

愛光中学校 松坂 光樹

今回の研修で強く感じたことは、「言語の大切さ」です。ホストファミリーとは事前にメールで連絡をとって、さらに仲良くなる為に頑張って英語で話そうと思っていたのですが、いざ本番となるとYes, No, or OKの連発になつてしまいました。ですが、勇気を出して自分から簡単なことから話し始めることで少しずつコミュニケーションがとれるようになり、充実した時間が過ごせました。ホストファミリーとの別れは悲しかったですが、彼らはとても親切にしてくれたので、今度ホストファミリーのAntonioが松山に来たときはさらに英語のスキルを上達させて松山を案内したいと思っています。

また、大門さんをはじめとするたくさんの方々がガイドをして下さいましたが、どの方も日本語と現地の言語を巧みに使って通訳や解説をしていて、心に感謝を受けました。

今回の派遣で異なる母国語を話す人とのコミュニケーションを実際に体験できたことは、貴重な学びになりました。今後は外国語を学んだり海外の人達と関わったりすることで、国際交流に貢献していきたいです。

最後になりますが、この旅を支えてくれた関係者の方々、そして引率の先生方と派遣生の仲間々に感謝したいと思います。ありがとうございました。



ヨーロッパパークにて

伝わる言葉のツレ

松山市立城西中学校 藤本 日和



ホストファミリーとミニゴルフ

私は前日からパスポートは忘れていないか、ホストファミリーに自分の気持ちを伝えることができるかなど不安とわくわくで頭がいっぱいでした。次の日、長いフライトを終え、やっとフランクフルトに着き、空港を出た瞬間、今いる場所がドイツなんだなと実感することができました。私のホストファミリーのMarieは家に移動する車の中で私にたくさん質問をしてくれました。一番最初にドイツで行きたいところはありますか?と聞かれて、「I like shopping, so I want to go shopping!」と答えるMarieが「I like shopping, too!」と答えてくれて初めて会話を成立させる事ができてとても嬉しかったです。

私の一番印象に残っているのはかわいい町並



お城の中でホストファミリーと

思い出ランキング



面白かった見学地ランキング

- 1位 ゲーテ校
- 2位 フライブルク旧市街地
- 同率2位 ヴァルトハウス (森林保全学習施設)

美味しかったものランキング



- 1位 ソーセージ
- 2位 プレッツェル
- 3位 シュニツェル



びっくりしたことランキング

- 1位 学校が自由!
- 2位 16歳からビールが飲める
- 3位 夜でも外が明るい



写真は夜10時頃に撮影したもの



ホストファミリーの皆さんと

滞在中に、フライブルク在住の大門さんやフライブルク大学に留学している山崎さん、ゲーテ校の校長先生やケンプター先生、独日協会理事のウエルケ夫妻、市議会議員さん、また、ドイツやスイスを案内してくださった現地のガイドさんなどと交流することができた。隣国と国境を接しているヨーロッパの各国において、様々な人種が共に生活し、政治・経済・文化・宗教・言語教育などの違いを受け入れながらも、国を思う心と自国民としてのアイデンティティをしっかりと持って生きていることを強く感じさせられた。

海に囲まれた私たちが、隣国を身近に感じたり、海外に向いたりする機会は多くはない。だからこそ、若いうちに積極的に海外に出向き、交流することの意義を強く感じた。

「帰りたくない」「子どもたちからそんな言葉が出る研修となりました。」この研修で、「自分の意見を伝えること」と「相手を理解しようとすること」の大切さを改めて感じました。子どもたちは、最初は「こちななホストファミリー」とも日を重ねることに仲が深まってきました。家族と離れ、知らない土地で初めて会った人たちと過ごす日々は、不安が大きかったと思います。しかしその分、自分で考えて行動をして得られたものはとても大きかったと思います。お別れの日、涙を流しながら抱き合っていた姿、そしてバスが見えなくなるまで見送ってくれたホストファミリー。その様子から、子どもたちが純粋に、「相手を知りたい」「学びたい」と感じ、努力したのがわかりました。今はインターネットを使えば簡単に世界中のことを知ることが出来ます。しかし、実際に見ること、それまで日本で学習していたよりも多くの日本との違いを感じることができたのではないのでしょうか。子どもたちが国際人として大きく羽ばたいてくれることを期待しています。



スイスの美しい景色と共に

10日間の研修を終えて、多くの生徒達が「帰りたくない」「ドイツに住みたい」と言っていました。それらの言葉がこの研修の満足度を示してくれているように思います。今後は、今回の貴重な経験を多くの人に広め、世界市民の一員という自覚を持ち、世界平和に貢献できる人材として彼らが成長していくことを心から願っています。



フライブルク市役所

引率の先生方

団長 松山市立勝山中学校
校長 青井 俊憲

国際人として

松山市立桑原中学校
教諭 伊藤 宙代

国際理解で大切なもの

愛媛県立松山西中等教育学校
教諭 菅野 圭作

6月中旬、ドイツを訪問する生徒達と初めて出会った時は、おとなしく、消極的な彼らに、本当に大丈夫かなと不安でした。しかし事前研修を重ねるにつれて、彼らの想いや意気込みを知り、この子達ならきっと大丈夫という自信を胸に、ドイツへと旅立ちました。

私自身、ヨーロッパ訪問は人生初であり、フライブルクの街に降り立ったときには、その町並みの美しさに圧倒されました。研修では様々な姉妹都市交流活動を通して、街の歴史や自然保護、環境問題などについて体験しながら深く学ぶことができました。交流活動を通して、生徒達が理解し合いたいという姿勢を前面に出し、積極的にコミュニケーションを取る姿に感動しました。「国際理解」において大切なもの、それはお互いを理解し合おうとする姿勢だと思えます。特にホストファミリーとの夕食会では、漢字や折り紙などの日本文化を紹介したのですが、言葉の壁を越えて、気持ちを通じ合い、共に笑顔の壁を共有する場面を通して、「国際理解」を深められたことが一番の成果であったように思います。

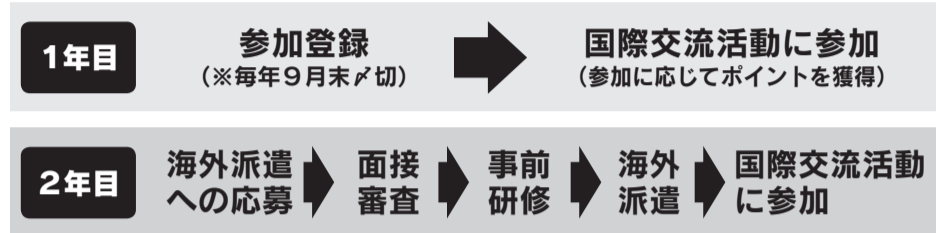
中学生チャレンジプロジェクトとは?



①プロジェクトに参加できるのは?

- 松山市内に住んでいる、中学1年生、2年生
- 広く世界の国々について興味があり、地域での国際交流活動に参加する意欲のある人（派遣生になるにはプロジェクトへの参加が必要です）

②プロジェクトの流れ



③ポイント対象となる国際交流活動例

- ・地球人まつり
- ・のぞいてみよう!国際協力の世界
- ・まつやま中学生海外派遣報告会
- ・外国語deおしゃべり(ジュニア編)
- ・MIC職場体験
- ・ホームステイプログラム など

4ポイント以上ためると応募可能

詳しくは右記「イベント紹介」をご確認ください。

★イベント紹介!★

★地球人まつりボランティアスタッフ 2ポイント



毎年1月に開催される“市”上最大の国際交流イベント「地球人まつり」に向け、各国のチームに分かれて約1か月に渡り企画や準備を行います。当日の達成感は格別です。

★のぞいてみよう! 国際協力の世界 (JICA編) 1ポイント

JICA愛媛デスクから講師をお招きし、ワークショップをしたり、実際に青年海外協力隊のOB・OGのお話を聞いたりできるイベントです。



★ジュニアボランティア入門講座 1ポイント



ボランティアに興味のある中学生を対象に、自分たちにもできることを考える入門講座を開催しています。実際にボランティア活動にも参加します。

“まつやま国際交流センター”ってどんなところ?



まつやま国際交流センターは、Matsuyama International Centerの頭文字をとって「MIC(ミック)」の愛称で親しまれています。松山で暮らす人たちが人種・国籍・宗教などにかかわらず、仲良く快適に暮らせるよう、さまざまなサービスを行っています。

①「私も何かしてみたい!」という皆さんへ

☆ボランティアガイドのための語学講座

ボランティア活動に役立つ実践型語学講座(英語、韓国語、中国語)を半年ごとに開講しています。



☆ホストファミリーバンク

ホームステイを希望する外国人を受け入れるホストファミリーとして登録していただきます。受け入れは随時行っています。



☆MMF(My Matsuyama Family)

松山在住の留学生にとっての「第2の故郷=松山の家族」をつくらせていただくための制度です。登録者と留学生をMICでマッチングした後は、自由に交流できます。



☆外国人オタスケマン

困っている外国人の力になりたい、という方にご登録いただき、ご近所感覚で外国人のサポーターとして活躍していただきます。

②イベントを通して国際交流を体験してみよう!

☆地球人まつり(1月)

市民と外国人市民の皆さんとの交流を深めてもらおうと、毎年1回開催しています。世界各国の遊びや文化、料理などを体験できます。

☆国際交流サロン(随時)

市民と外国人市民とが楽しみながら交流できるイベントを随時開催しています。



☆地域での交流活動のサポート(随時)

地域のイベントに市民と外国人市民と一緒に参加し、交流します。

③外国人市民の皆さんへ

☆窓口相談サービス

外国人市民の皆さんからの相談対応や、松山で生活をする上で必要な生活情報の提供を行っています。また、毎月1回外国人のための行政書士無料相談も行っています。

☆外国語としての日本語教室

外国人市民を対象に無料で開講しています。託児サービス(無料)もあります。



☆自転車の貸し出し

短期滞在の外国の方に対して、無料で自転車の貸し出しを行っています。

国際交流情報が満載の
MICメールニュースを
週に1回配信しています。
配信希望の方は mail@mic.ehime.jp
までメールを送ってください。

お問い合わせ まつやま国際交流センター(MIC)

〒790-0003 松山市三番町6丁目4-20 コムズ1階
TEL:089-943-2025 FAX:089-931-2041
E-mail:mail@mic.ehime.jp <http://www.mic.ehime.jp/MIC/top.html>

MIC Facebook
はこちら

